

WITH

Arisawa Communication Magazine

Vol.30
2024 December

ARISAWAの
今を伝える情報誌

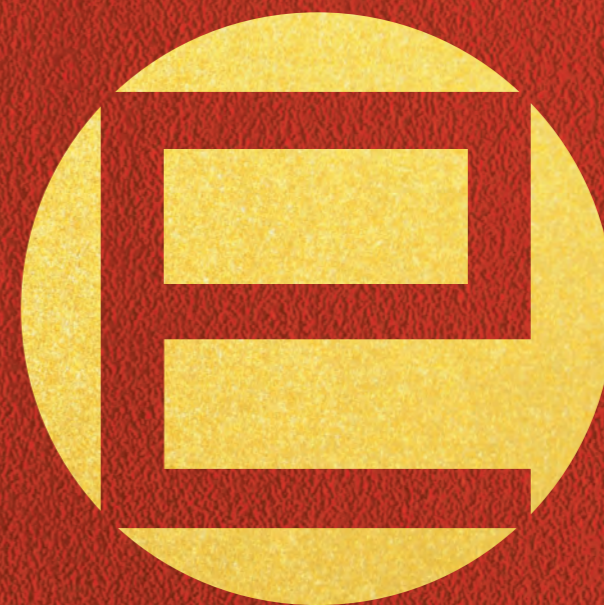


WITH

Vol.30 2024 December

発行日/2024年12月1日

発行/有澤建設株式会社 福岡市博多区博多駅南4-4-12



謹賀新年

本年も皆様のご健康とご繁栄を
心よりお祈り申し上げます
令和七年 元旦

有澤建設株式会社
代表取締役 木下 英資



贅沢なアプローチが美しい
駅前の新たなシンボル

ポレスター香椎駅前

2024年5月、JR香椎駅前に9階建ての分譲マンション「ポレスター香椎駅前」が完成した。開発を手がけたのは株式会社マリモ（以下、マリモ）。有澤建設との出会いは、昨年竣工した賃貸マンションを建設した時のこと。「ポレスター香椎駅前」は、私も初めて福岡市内で開発する分譲マンションです。社を挙げて期待を込めるプロジェクトを、ぜひとも有澤建設さんと共に進めたいと考えました」と、木村淳一マンション事業本部九州支店支店長兼長崎営業所所長（以下、木村氏）は語る。



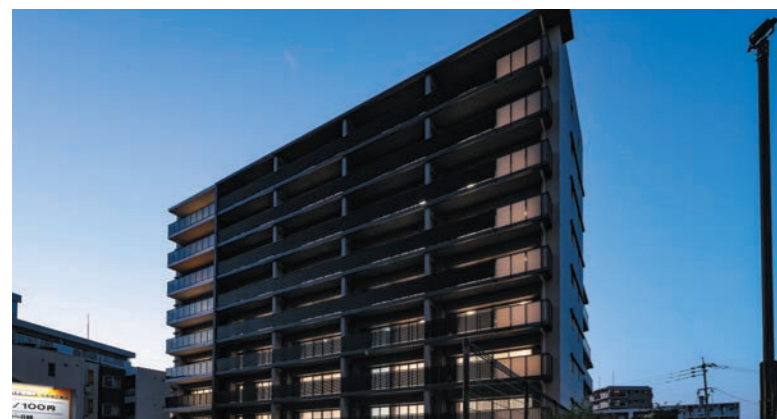
株式会社マリモ 木村淳一
マンション事業本部九州支店支店長兼長崎営業所所長

建物概要

◎ポレスター香椎駅前

用途：共同住宅
竣工年：2024年
建築地：福岡市東区

構造：鉄筋コンクリート造
規模：地上9階建



香椎駅を出て公園を左手に見ながら歩いていくと、豊かな植栽と洗練された外観が印象的なマンションに迎えられる。大きな特徴は土地を贅沢に使ったアプローチ。長さも幅もゆったりとした様は、まるで高級ホテルのようだ。夜になると間接照明が織りなす光が幻想的な雰囲気演出する。「福岡はとにかくマンションのレベルが高い土地。ですから私どもも、既存の概念を外して飛び抜けたデザイン力を発揮すべくチャレンジしました（木村氏）。その心意気は随所に溢れている。エントランスホールの重厚感のある石積み調タイルには熟練した職人の仕事光る。木製のルーバーを配し、温かみのある空間となった。外の公園からアプローチ、そしてマンションの内部まで連

続性を感じる、心地よい導線が生み出された。全国に展開されるポレスターシリーズのコンセプトは「Beautiful Basic」。過度な装飾は行わず、スタンダードかつ高品質な理想の住空間を追求し続けている。中でも当物件はワンランク上の暮らしを求める高年齢層をターゲットに、部材のセレクト一つひとつにもこだわっている。部屋の中にできるだけ梁や柱を出さず、すっきりと美しい空間をつくり上げた。住む人の目には見えない箇所にも気を配り、永い年月が経っても安全と快適が続くつくりとなっている。収納ひとつひとつも、使い勝手の良い絶妙な奥行き、棚の高さを細かく変更できる仕様、カビの発生を抑える機能性の高い換気など、細部にまでぬかりがな

い。シンプルだからこそ一切のこまかしが効かない精度の高さが求められる施工を、有澤建設はすべて着実に遂行した。こうして無事に竣工したポレスター香椎駅前。「各所にこだわりが強い当社の要望に、有澤建設さんはしっかりと応えてくださいました。施工経験の豊富さを感じており『さすが』の一言です」と満足の表情を浮かべる木村氏。マリモの信念を有澤建設がかたちにしたマンションが、香椎駅前の新たなシンボルとして存在感を放ち続ける。

▶株式会社マリモ様のご紹介

広島県に本社を置く不動産総合デベロッパー。1970年に設計事務所として設立。分譲マンションを全国で展開し、2024年7月現在で478棟の実績を有する。市街地再開発事業、海外不動産事業、収益不動産事業、賃貸住宅事業なども手がける。

<https://www.marimo-ai.co.jp>



都会暮らしを快適にする
ハイクオリティな賃貸マンション

アルティザ大橋駅前

株式会社マリモ（以下、マリモ）が長年の分譲マンション事業で蓄積してきたノウハウを活かして展開を始めた賃貸マンションブランド「アルティザ」。その新たな1棟が2024年夏、大橋駅前誕生した。

「快適な都会の暮らしを演出するレジデンス」のテーマに相応しいアーバンなデザインが印象的な外観。一見してシンプルだが、スラブの色がホワイトとグレーでランダムに塗り分けられているなどさりげなく個性も光る。間取りは1K・1LDKで、豊かな



暮らしを望む学生や社会人の1人住まい需要に対応する。限られた条件の中でも最大限に高級感を演出するため、施工に工夫を凝らした。通常であればタイル貼りにするところを吹き付け加工で仕上げる、エントランスにセメント材を活用する、鏡張りという伝統的な工法を取り入れるなど、あまり経験のなかった素材や施工方法に挑戦した。有澤建設は、マリモからの要望に沿って資料やサンプルを取り寄せただけでなく、積極的な提案も行った。

「お客様に喜ばれる住まいをつくるために大事にしているのは『建設会社さんを巻き込む』ことです」と話す木村淳一マンション事業本部九州支店支店長兼長崎営業所所長（以下、木村氏）。設計士に加え、現場監督を務めた有澤建設企画工務部の永田、マリモマ

ンション事業本部九州支店係長 杉笑美加氏と企画営業部の小山の女性チームがそれぞれ1室ずつ担当し、クロスなどの選定を行ったのだ。「失敗は出来ないと最初は身構えましたが、木村様からの『遊んでみて』とのご助言で普段とは違う物を選びました。皆それぞれに思い入れのある部屋ができたと思います（永田）」「楽しい現場でした。私は内装のプロではありませんが、だからこそ住む人に近い視線で選定することも大事だと実感しました（小山）。「適度なプレッシャーもありつつ真剣に取り組むからこそ、結果的に質の高い仕事につながります。多様な視点を取り込むことで、多くのお客様に愛される物件になるのです（木村氏）」。

当物件は、近隣に戸建て住宅の多い狭小地建築。マ

ンションの上層階から戸建て住宅の中が見えてしまいうような箇所にはすりガラスを採用する、ルーバーのすきまをなくするなど、住民の不安を払しょくするよう永田が細やかに気を配り対応した。

竣工から3カ月で満室となったアルティザ大橋駅前。「私はこれまで多数の物件を見てきましたが、断トツの仕上がります。もちろんしっかりと検査は行いましたが、それをするまでもなく一見して素晴らしいとわかりました。建築物には現場監督の性格が出ると言われますが、永田さんの誠実なお人柄が表れていますね（木村氏）」。マリモと有澤建設のタッグで完成したハイクオリティな賃貸マンションが、大橋の街に住む人の暮らしを豊かにしていく。

建物概要

◎アルティザ大橋駅前

用途：共同住宅
竣工年：2024年
建築地：福岡市南区

構造：鉄筋コンクリート造
規模：地上9階建





豊かなライフスタイルがかなう
光溢れるレジデンス

CLUB NEXUS 大濠西

福岡地所株式会社（以下、福岡地所）が新たに展開する賃貸レジデンスブランド「CLUB NEXUS」の第1号物件が2024年10月、大濠公園そばに完成した。有澤建設が依頼を受けたきっかけは、以前に福岡地所が手がけるオフィスビルを施工した経緯から。「素敵な建物を造っていただき、入居されている企業の方々にも非常に好評です」と、福岡地所開発事業三部の高田佳栄氏（以下、高田氏）は話す。



福岡地所株式会社 開発事業三部 高田佳栄氏

CLUB NEXUS 大濠西のキーワードは「スローレジデンス」。時間の流れを豊かに感じられるような、居心地の良い

建物概要

◎CLUB NEXUS 大濠西

用途：共同住宅

竣工年：2024年

建築地：福岡市中央区

構造：鉄筋コンクリート造

規模：地上7階建

空間づくりをめざしている。外観は、街並みに馴染む中間色をホワイトのグリッドが程よく引き締め、洗練された印象に。ランダムに配した窓がリスミカルな表情を生み出し、個性的なファサードとなった。エントランスホールには木製のパネルを使用し、木々に包まれているような温かみを感じる空間に。大や猫と暮らせることも当物件の特徴であり、共用部にはペットの足洗い場を設けた。

1LDKと2LDKの多彩な間取りを揃えているマンションだが、各戸に共通する特長は床から天井まで伸びる大きな窓。圧倒的な開放感と豊かな採光を体いっぱい感じられる。これほど室内が明るくなっても、壁の凹凸などわずかな粗も見られない綺麗な仕上がりがりとなった。

自然素材を用いた造作物にもこだわりが溢れている。リビングとベッドルームの間には木製フレームのガラス建具を入れ、空間の連続性を生み出す。ニッチのあるおしゃれな木製収納棚も、物件のコンセプトに合わせて職人が腕を振るったものだ。キッチンの背面壁にタイルを一つひとつ貼り付

けて仕上げた部屋もある。このような造作物の建具や造り付け家具を扱う工事は、既製品の場合と比べて検討事項が多くなり、施工の難易度も格段に上がる。たとえミリの誤差でも意匠性に大きな影響を与えるというシビアな状況の中、有澤建設の技術と知見を集結して、こだわりの実現した。「無理を申し上げた点もあったかもしれませんが、設計やデザイナーと連携いただき感謝しております。最後の施工検査においても指摘事項が少なく、非常に綺麗に仕上げていただきました。（高田氏）」。

内覧に訪れる方々からも「今まで見たことのないマンション」「賃貸とは思えない」といった感嘆の声が聞かれるそうだ。「ビルなどの公共性の高い建物から今回のような細やかな施工まで、有澤建設さんの幅の広さを改めて感じました。今後ともよろしく願います」と高田氏。CLUB NEXUS 第2号物件の建設が既に始まっている。福岡地所が紡ぐ住まいへの思いを有澤建設がかたちにして、これからも福岡の街を彩っていく。



Photo by MASAOKI INOUE

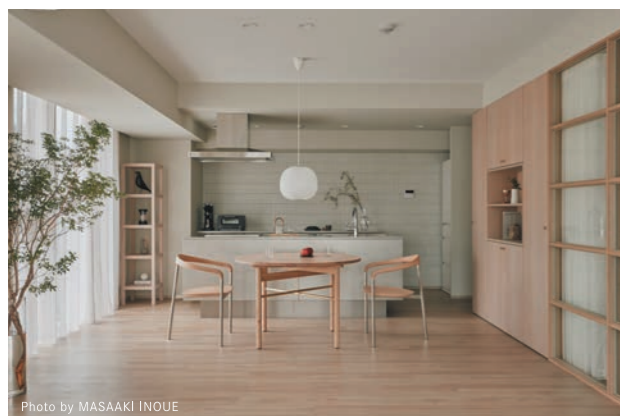


Photo by MASAOKI INOUE



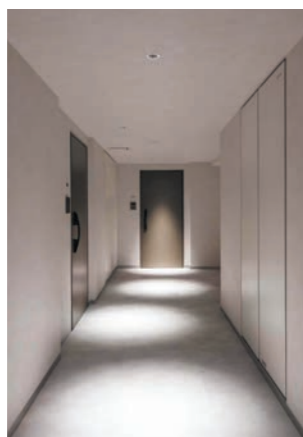
Photo by MASAOKI INOUE



Photo by MASAOKI INOUE



Photo by MASAOKI INOUE



▶福岡地所株式会社様のご紹介

1961年設立。「福岡をおもしろく」のビジョンを掲げ、福岡の街の成長を牽引する総合デベロッパー。スタートアップ拠点支援施設「FGN」の運営、天神ビッグバン規制緩和第1号「天神ビジネスセンター」の開発などを手がける。現在、高付加価値の賃貸マンション事業を推進している。

<https://fukuokajisho.com>



創業者の思いが詰まった
眺望抜群のマンションが竣工

ラフレシーサ愛宕

福岡の不動産賃貸業界で高い知名度を誇る賃貸マンションシリーズ「ラフレシーサ」。その最新物件となる19棟目が2024年2月、愛宕エリアに完成した。オーナーである株式会社ソフニエ（以下、ソフニエ）と有澤建設の出会い、同シリーズ3棟目の建設時に遡る。「歴史ある会社で高い権威性を感じていましたが、初めて営業担当の方とお会いした印象は謙虚で穏やか。その姿勢に共感と安心感を覚え、大事な事業であるラフレシーサをお任せすることにしました」と振り返る。



株式会社ソフニエ 舛田憲吾 代表取締役

建物概要

◎ラフレシーサ愛宕

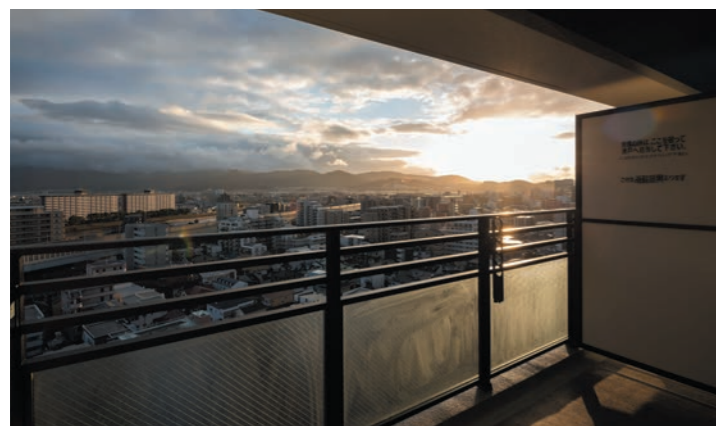
用途：共同住宅
竣工年：2024年
建築地：福岡市西区

構造：鉄筋コンクリート造
規模：地上15階建



のは、代表取締役の舛田憲吾氏（以下、舛田氏）。愛宕でのプロジェクトは数年前、舛田氏の父である創業者が土地の購入を決めたことに始まった。「先代はとにかく不動産への感覚が高く、土地を見ただけで将来像が思い浮かぶというような人でした。その先代が、この土地にきた瞬間に『15階建ての賃貸マンションを建てよう。絶対に最高の物件になる！』と言い切ったのです（舛田氏）。格別の思い入れを込めて計画が進もうとしていたが、地鎮祭を翌月に控えたある日、先代が急逝された。突然のことにプロジェクトも一時ストップ。このまま頓挫してもおかしくなかったが、さまざまな問題が落ち着いた頃にソフニエが有澤建設に改めて依頼。『先代の思いが詰まっている物件ですから、是非こちらこそお願いします』と言っていたとき、非常に嬉しかったことを覚えています（舛田氏）」。

建物の外観は、落ち着いた愛宕の街に馴染むよう洗練されたデザインを採用。ソフニエのコーポレートカラーであるブルーが上品なアクセントになっている。照明の効果で夜の表情も美しく仕上がった。1階共用部には木目調のルーバーを設置し、トレンドを意識することも忘れない。LED K賃貸マンションには珍しい広々としたバルコニーも見どこ



ろで、テーブルやチェアを置けばリビングの延長のような寛ぎの空間となる。館銘板を取り付ける箇所は当初シンブルな壁になるはずだったが、ボイダータイルを全面に配した仕様へとグレードアップ。高級感が溢れるマンションの顔となった。

工事は概ね順調に進んだが、予期せぬアクシデントも発生した。工期の終盤、エレベーターの納入が大幅に遅れるとの連絡が入ったのである。「有澤建設さんが、ソフニエさんの大切な物件だからと熱心に説得してくれて、致命的な遅れを回避できました。本当に感謝です（舛田氏）」。

こうして完成したラフレシーサ愛宕は、竣工から1カ月で満室となるほどの人気を博した。「どこに出しても恥ずかしくない自慢の物件ができました。思いをかたちにしてくださり、なおかつしっかり予算内に納めていただき感動しています」と舛田氏。最高の眺望をもたらす美しいマンションは、先代から受け継いだ思いを次の世代へとつないでいく。

▶株式会社ソフニエ様のご紹介

1990年設立。福岡にて貸アパート・マンション、貸事務所・店舗、中古マンション・事務所・店舗販売の事業を展開。不動産の売却、購入、買換え、賃貸管理といった相談全般に細やかに対応する。

用途：工場、事務所、倉庫
 竣工年：2024年
 建築地：福岡市博多区

構造：鉄骨造
 規模：地上3階建



国内でも珍しいロボットを活用した自動倉庫。一般的な倉庫では必要な格納物を運ぶフォークリフトの通路がいらず、通常の2倍以上パレットを格納することが可能となる。設計を担当した株式会社和田設計・和田彩美意匠設計部設計課長(以下、和田氏)を中心としたチームが工夫を重ねた提案を行い、2階から上を倉庫としたプランが採用された。「施主様、有澤建設、協力業者と当社が参加する工程会議を月2回開催し、多くの議論を交わしながら作り上げたのでその良さが随所に現れている素晴らしい建物ができたと感じます(和田氏)」。

新しい社屋は会長夫妻の社員への思いが細部にまで溢れるつくりとなった。搬入出や金属加工などの作業を行う倉庫棟の1階スペースは夏ともなると高温になりがちだが、空調をしっかりとした効かせた上、自社で扱う断熱材をふんだんに使用して年中快適な環境に。オフィス棟のプランニングにあたっては、会長の奥様が数十人もいる社員一人ひとりにヒアリング。その結果、広々とした打ち合わせスペース、眺望の良いテラスのあるカフェテリア、綺麗で快適なトイレなどが実現。さらに

執務室のアクセントクロスを各部署で選んでもらうなど、社員の希望が反映された職場環境となった。外壁は倉庫棟がホワイト、オフィス棟がダークグレーだが、当初は色を逆にする予定だった。倉庫棟の目の前にある集合住宅への圧迫感を軽減しようという会長の思いで変更した。また工事期間中は現場近隣に配慮した作業工程を組み上げた。

こうして、会長夫妻の優しさが溢れる新社屋が完成。「働きやすい環境であることは当然として、社員が家族に自慢したくなるような社屋をつくりたいと長年思っていました。有澤建設さんのおかげで実現しました。完璧な仕事をしてくださり、自信を持って他の方にもご紹介したいですし、いつかここが手狭になったらまたお願いしたいです」(大久保氏)。どんなに細かな要望もキャッチしてレスポンスをくださり、そのたびに感動していました。難しいことでも何とかしようという懸命に考えてくださり、本当に感謝しています(奥様)。最新の技術と温かな思いやりが詰まった新社屋で、PRIXはここ福岡から未来を創造し続ける。

▶PRIX株式会社様のご紹介

建築資材の卸売販売を行う株式会社福保グループに属する。断熱材・断熱材特殊加工のほか、建築・プラント・造船・産業用の空調資材を扱う総合商社。今回のプロジェクトで福岡市南区若久から博多区大井に移転して新社屋が完成。



会長夫妻の二人三脚で
社員と地域への優しさ溢れる社屋を新築

PRIX株式会社 新社屋



PRIX株式会社 大久保浩明 代表取締役会長ご夫妻

断熱材などを扱う商社PRIX株式会社(以下、PRIX)の新社屋が2024年8月、福岡市博多区大井に完成した。有澤建設への依頼を決めた経緯を振り返って、大久保浩明代表取締役会長(以下、大久保氏)はこう話す。「地場で有名な総合建設会社であることに加え、社長が同じ大学のOBということもあり信頼を寄せていました。この計画が立ち上がるずっと前から『本社屋を建てるなら絶対に有澤建設さんをお願いしたい』と社長に話していたのです」。

倉庫棟・オフィス棟から成るPRIXの新社屋。従来は3カ所に分かれていた拠点を1つに集約するために、土地を効率良く使う必要があった。そこで導入したのが、



子どもたちの笑顔を
未来へつなげる新しい園舎

筑紫ヶ丘保育園

1970年の開園以来、地域に根差して子どもたちの心を豊かに育んできた筑紫ヶ丘保育園。今回初めての建て替え工事を行い、2023年12月、竣工の時を迎えた。「経験のないことで不安もありましたが、初回の打ち合わせから相談しやすい雰囲気をつくっていただき安心しました」と話すのは、池尻千鶴子園長（以下、園長）。隣で池尻祐治副園長（以下、副園長）も大きくうなづく。

時代と共に求められる保育環境が変化する中、旧園舎にはさまざまな課題があった。保育園には布団や楽器など大型かつ大量の物があり、収納場所が手狭になっていた。昔ながらのタンスでは角がケ



筑紫ヶ丘保育園 池尻千鶴子園長（左）、池尻祐治副園長

ガの原因にもなる。保育士が子どもと離れて休憩する空間がない、給食室が狭く作業に支障が生じているといった悩みも解消したいと考えた。

新たな園舎は、現代の街並みに馴染む都会的な雰囲気と温かみを両立した外観に。中に入ると、広々としたホールの開放感に驚く。窓からたっぷりと太陽光が降り注ぎ、各教室の窓越しには吹き抜けを通じて子どもたちの様子を伺うことができる。お迎えの時間ともなると、ホールに入ってきた保護者の姿を子どもが2階の窓から見つけて笑顔が弾ける光景も見られるようになった。「どこにいても子どもたちの気配が感じられ、安心感があります（副園長）」。

壁面には大容量の収納を多数設け、空間にゆとりが生まれた。給食室は従来の倍程度の広さとなり、作業効率と安全性が向上。廊下から給食室の中が見えるよう壁にガラスを入れ、職員と子どものコミュニケーションが育まれている。保育士の休憩スペースも新設。部屋ごとに異なるクロスを選ぶなど遊び心も随所にちりばめた。

保育園の建て替え工事は開園時間中に行わざるを得ないため、安全性と快適性に最大限配慮する必要がある。午睡の時間には工事を中断する、資材を搬入出する車両の往来が送迎の時間帯に重なるのを避けるなどしながら、綿密なスケジュール調整を行った。仮囲いには窓を設け、重機や工事の様子を子どもが覗けるようにした。子どもが入ると危険な箇所にはかわいらしい動物のイラストをあしらった進入禁止の幕や扉を設置。工事を安全に行いながら関わる方々の笑顔を生み出すことも大切にするのが有澤スタイルだ。行政の助成を利用して開設できる保育園は福岡市では年間数件しか選定されないこともあり、「保育園建設のノウハウは蓄積しづらい。それでも幅広い経験からなるノウハウを駆使して順調に工事は完了した。長い時間をかけてこんなに立派なものを造っていただき、ありがとうございます」と園長が話す。「本当に素敵になりました。子どもたちのびのびと楽しそうに過ごしています」と副園長が続ける。生まれ変わった園舎はこれからもあたたかく子どもたちを包み込み、笑顔を育てていく。

▶ 筑紫ヶ丘保育園様のご紹介

社会福祉法人筑紫会が運営。福岡市南区野間に位置する。健康で個性豊かな子どもの成長を目指し、個々に合わせたきめ細かい保育を行っている。時間延長型保育、特別支援保育にも対応。

建物概要

◎ 筑紫ヶ丘保育園

用途：認可保育所
竣工年：2023年
建築地：福岡市南区

構造：鉄骨造
規模：地上2階建



有澤建設で最近話題になった様々な出来事をご紹介します。

現場の台風対策

秋になり、涼しくなると毎日が少しずつ過ぎやすくなるのと入れ替わるように毎年やってくるのが台風。
そこで建築中の建物を台風から守る対策を少しだけ紹介いたします。

建物を造る時に必須となる外部足場を覆うように貼っているのは、足場の外に物が落ちるのを防ぐ役割を果たす非常に細かな穴が開いたメッシュシートと呼ばれ



るものです。
この他、穴の開いていない防音機能を考慮した防音シートや防音パネルなど色々ありますが、工事中の物や埃、音、光を足場の外へ漏らさないようにすればするほど、当然風の通りが悪くなります。
そのため「台風接近」の天気予報が発出された際は、速やかに外部足場を覆っているシート類を絞り、内側にシートを貼っている場合は取り外し、風の抜け道を確保して倒壊を防ぎます。
同時に足場の不安全箇所を徹底的に調べて是正し、飛散する恐れのある物は全てチェーンやロープなどで固定し、万全の状態での台風の接近に備えます。
万全の対策は行いますが、台風が来ないのが一番良いですね。
進路予報が出て、九州の手前

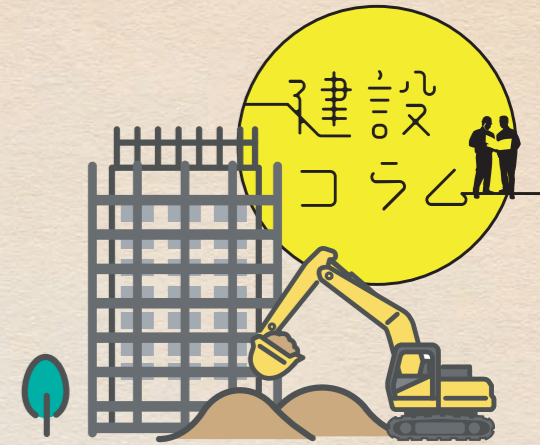


で曲がって誰もいない海に去って行って欲しいものです。

対策を怠らず、台風が来ない・来ても被害が無い福岡を祈りつつ、日々現場管理に努めてまいります。



有澤建設のブログも要チェック!



皆様は「工事現場」という言葉からどんな外観をイメージするでしょうか？

現場を白いパネルが囲い、灰色のシートが建物を覆っていて、赤白模様のタワークレーンが資材を吊り上げ、ミキサー車やタンクが行き交っている...そんなイメージが浮かぶのではないのでしょうか。

そんな「工事現場」の白いパネル(仮囲い)や灰色のシート(外部足場を覆っている飛来落下防止用メッシュシート...いわゆる「足場」のことを、総じて「仮設物」と呼び、これら「仮設物」があるからこそ建物が出来上がると言っても過言ではありません。また、ミキサー車などの工事車両をどのように現場へ送り着かせて「配置」するかを考えておかなければ、道が狭くて大型車両が通行できず、小型車両に切り替えたことで資機材の搬入出に遅れが生じて工期が遅延してしまったり、道路に工事車両がはみ出して歩行者や第三者車両の安全な通行に支障を来すなど、後で大きなトラブルに発展しかねません。
その為、工事を請け負う前に、建物建築予

工事仮設計画の事前検討について



定の現場に適切な仮設物が設置可能かどうか、工事車両が現場へ出入りする最適な経路及び作業時の配置計画を検討しておくことが非常に重要となります。

今回は「工事仮設計画の事前検討の重要性を簡単に」説明したいと思います。

工事仮設計画の検討を行う上で、まず何より大切なことが「実際に現場を見る」ことです。弊社有澤建設では、お客様から物件引合をいただいた時点で、関係者の方に確認の上、工務部担当者が実際に現場を見に行つて現況を確認します。



この時の現場確認で重要なポイントは、現場と接している道路及び周辺の道路状況、現場周囲の建物等の状態となります。
工事現場には、普通自動車より一回りも二

回りも大きい工事関係車両が毎日のように出入りしますので、主要幹線道路(大通り)から現場に至るまでの最適なルートを検討する必要があります。特に大通りから現場接道道路までの「道路の幅(幅員)」や「道路構造物(電柱やバリカーなど)の有無」等の「道路状況」のチェックは必須です。

ここで道が狭い、現場の目の前に道路構造物がある、入退場の支障となる等の悪条件が確認できれば、それに応じた各種対策をあらかじめ検討することによって、いざ工事着手となつても対策内容に応じた素早い動きを取ることが可能です。

また、現場周囲の建物等の状態を確認し、建築予定建物の配置計画等を基に足場を割り付ける「仮設計画」を立案する際、本場に足場を設置出来る「余地」が現実的に確保可能かどうかを判断します。図面や地図上では設置可能に見えても、実際には隣接建物が境界ギリギリまで建つていたり、フェンスや駐車場、コンテナ倉庫など地図上に表示されない構造物が存在している為に足場を設置するスペースが全く無い、というケースもあります。その場合、まず「抱き足場」や「張出ブラケット足場」など最低限の幅で設置可能な現場にて仮設計画を行います。それでも設置が難しいようであれば、隣接建物や土地の所有者、管理者の方と「足場越境」に関する事前協議を状況に応じて実施します。



しかし、もしそのような各種検討・協議を行った上で、どうしても足場を設置できずに無い場合には、やむを得ず建築予定建物の配置計画について「見直し」をお願いし、適切な足場の設置スペースを確保していただくこととなります。敷地をフルに活用して広い建物を建てたいと思うのは当然のこと、建設会社としても最大限その思いに応えたいのですが、その建物を建てる為には、建物の周囲にある程度の作業スペースが必要であるということも、是非ご理解いただきたく存じます。

これ以外にも、資機材搬入に用いる揚重機械をどうするか(移動式クレーン車?あるいはタワークレーン?)、現場を囲う仮囲いは適切に設置できるか、工事に使う仮設電気・水道の能力や引き込み位置はどうするか等々、事前に検討すべき事項はいくつもありませんが、今回は特に重要な「足場」と「工事車両」に関する「仮設計画」についてご紹介しました。

これから建物を建てようとお考えの方に、少しでもお役に立てれば幸いです。

